# 令和5年度
# 看護向上力支援事業報告書

# 認知症認定看護師看護支援を受けて

公立相馬総合病院
日下　きよみ
令和５年12月13日（水）

# 当院の概要

- 地域中核基幹病院・二次救急告示病院
- 病床数：一般病棟190床（CCU ・ICU・NICUを含む）
  地域包括ケア病床8床
- 急性期一般入院料４・看護単位５
- 病棟数：３病棟
- 職員数：医師22人、看護職131人、看護補助者11人、作業療法士1人
  理学療法士 5人、薬剤師8人、検査技師8人、栄養士2人、
  放射線技師8人、事務職29人、臨床工学技士 5人
- 診療科：23科
- 認知症リンクナース会：看護師長1名、スタッフ6名
- 認知症ケア加算3取得

# 当院の課題

- 地域の高齢化率31％を超え、入院患者の80％以上が65歳以上

- 認知症患者に対して偏見がある
- 人員不足を理由に、認知症患者の意思を尊厳した看護の提供ができていない。対応に苦慮しておりスタッフが疲弊している

- 「認知症」と「せん妄」症状の違いの理解不足
- 認知症患者の捉え方に差異があり、個別性のある統一されたケアの実践ができていない

- 個別性のある看護計画が立案されていない

# 目　標

- 認知症の理解を深め、認知症患者の個別性を考慮した対応を考えることができる

- 身体拘束を第1選択とせず、認知症患者の視点に立ってケアを考えることができる

# 支援を受けた結果1

研修会動画（5回）を、いつでも全スタッフが視聴できるようにした

◆スタッフの意識に変化が見られた

・認知症や認知症患者の理解を深めることができた
・認知症とせん妄の違いが分かった
・一人の人間として患者を尊重し看護したい
・認知症患者の視点に立ちケア・支援したい
・患者の背景を理解し思いに寄り添った支援をしたい
・カンファレンスを行い、チーム全体で関わっていきたい
・身体拘束をする前に、患者の行動の意味を考え対応していきたい

スタッフ

# 支援を受けた結果2

◆病棟ラウンドから関わり方やコミュニケーションの取り方を実際に見ることができ学びを深めることができた。認知症リンクナースの成長に繋がった

・患者の全体像を捉え、認知症患者の視点で考えるようになった
・目線を合わせる。自己紹介、安心感が得られ話し方で接するようにした
・時間をかけて話すように心がけるようになった。本人を褒めたり、困りごとを聞いたり、体に優しく触れたり、意識的に関わるようになった
・ゆっくりわかりやすく説明するように心がけるようになった
・簡単な掲示の表示や時計・カレンダーや本人が自宅で使用していた物を家族に依頼し、環境調整を行うようになった
・リンクナースとして、スタッフに指導やアドバイスできるようになった
・学んだことをケアに取り入れ、認知症患者から笑顔が見られ自信につながった
・頻回な訪室、声かけ、離床をさせることを意識して行うようになった
・医師に薬剤内服を相談するようになった

リンクナース

# 今後の課題

- 支援で得た学びを継続して、病院全体へ伝達していく
- 認知症リンクナースが、認知症看護・ケアについて具体的な実践指導・対応・指導を行っていく。スタッフの相談窓口が必要
- 標準看護計画ではなく、患者情報から個別性のある看護計画の立案、統一したケアを提供
- 認知症ケア加算3に関連した記録が、漏れがないようにひもづけていく
- 他職種と連携を取っていく
- 現在ある認知症ケアマニュアルの追加・修正
  1）フローチャートの作成
  2）認知症マニュアルの周知

# 今後継続していくために

- 定期的に勉強会・研修会を行い、学びを継続して伝達していく
- 各部署の認知症リンクナースが相談窓口になり、病棟ラウンドを行い、役割モデルとして実践指導や対応していく
- 認知症患者の言動について患者視点でアセスメントし、カンファレンスで情報を共有していく
- 他職種との連携を進める
- 病院全体の協力を得ながら、認知症看護・ケアをあきらめないで実践していく

環境調整後、昔を思い出し編み物を楽しむ患者さん